

平成 26 年度までの各部局の取組状況について

平成 27 年 3 月 31 日現在

1 職員の派遣・出向

職 種	人 数	備 考
県職員	595	派遣期間は長短あり
警察官	1,900	
合計	2,495 名	

(参考)

職 種	人 数	備 考
市町職員	743	
消防職員	346	
合計	1,089 名	

2 被災地支援

【防災対策部】

- 「救援物資対策窓口」の開設（23年3月18日）
- 応急仮設住宅における生活支援の実施（宮城県多賀城市内の6地区の応急仮設住宅に生活支援としてファンヒーター373個を提供）（23年11月16日）
- 学校給食用食材の支援（宮城県沿岸の小中学校に学校給食用食材として南伊勢町産みかん約5,600個を提供）（23年11月16日～12月21日）
- 県民から受け付けた支援物資の被災地への搬出終了（搬出数15,323箱）（23年12月22日）
- 第63回三重県消防大会と政府主催の東日本大震災一周年追悼式の会場を映像接続（24年3月11日）
- 津市河芸総合支所の旧町議事堂机・椅子の寄付申し出について、宮城県内市町村へ照会（24年4月11日）
- 一般からの詩集の無償配布の申し出について、河北新報社へ記事掲載依頼（24年5月23日紙面掲載）
- 津市福祉施設から大槌町への寄附の仲介（米360kg及び千羽鶴）（24年10月4日）
- 東日本大震災追悼式を県庁講堂にて実施
 - 二周年 25年3月11日 於 県庁講堂
 - 三周年 26年3月11日 於 県庁講堂
 - 四周年 27年3月11日 於 県庁講堂
- 久慈市水族館「もぐらんぴあ まちなか水族館」の復興を支援（26年2月～3月）
 - ・冷凍庫・フルフェイスマスク等を支援した。
 - ・県内水族館に働きかけ、魚類（平成27年度後半の新「もぐらんぴあ」完成時）や書籍（冷凍庫等と同時期）を支援いただけることになった。

- 「伊勢湾台風55年シンポジウム・風水害セミナー」で、被災地の状況にかかるパネル展示と資料の配布 (26年9月27日)
- 「昭和東南海地震70年シンポジウム」で、被災地の状況にかかるパネル展示と資料の配布 (26年12月6日)
- みえこどもの城による「3・11 ぼくたち・わたしたちにできること展」(27年2月14日～3月15日)への被災地の写真パネルの貸し出し
- 東日本大震災被災地派遣職員活動記録集の作成
- 四日市市・四日市市消防本部による「東日本大震災パネル展」(27年3月11日～4月10日)への被災地の写真パネルの貸し出し

【健康福祉部】

- 共同募金会、日本赤十字社の募金箱を県本庁舎及び各総合庁舎に設置 (23年度～)
 - ・24年度 117,938円、25年度 115,059円、26年度 86,730円
- 県民の方から同意をいただいた義援金を、「東日本みやぎこども育英募金」に寄付 (23年度～)
 - ・24年度 3件 332,739円、25年度 1件 196,563円、26年度 1件 228,981円
 - (24年度) 東日本大震災チャリティイベント in 伊勢安土桃山文化村実行委員会 130,101円、131,138円 2件計 261,239円、三學講堂(台湾のお寺) 71,500円
 - (25年度) 東日本大震災チャリティイベント in 伊勢安土桃山文化村実行委員会 196,563円
 - (26年度) 東日本大震災チャリティイベント in 伊勢安土桃山文化村実行委員会 228,981円

【環境生活部】

- 岩手県陸前高田市内中学校で津波被害を受けた美術品4点を受け入れ、修復 (23年11月～24年11月)
- 第18回三重県全国俳句募集事業(24年度)の特別企画「東北応援の一句」を、県ホームページ「三重の文化」で公開(25年6月)、入選作品等を他の作品とともに部門の句集として取りまとめ、東北地方の図書館等に寄贈(25年8月)
- 「みえ災害ボランティア支援センター」の活動(23年3月14日～25年12月28日)
 - ・ボランティア活動支援金の募集(23年4月5日～25年9月30日 計11,786,408円)
 - ・ボランティアバス「みえ発!ボラパック」の実施(23年4月28日～11月19日 36便 計648名)
 - ・ボランティアバス「みえ発!ボラパックII」の実施(23年11月5日～11月12日 1便 7名、24年4月13日～25年3月31日 27便 計460名、25年4月26日～9月17日 8便 計175名)
 - ・「山田町ではってマップ」第1号～6号の配布(23年12月28日～24年8月1日)
- 文化財レスキュー等のニーズがあり次第対応(対応実績なし)
- 災害廃棄物の広域処理
 - ・県、市長会、町村会の三者で災害廃棄物(がれき)の広域処理に関する合意書、覚書の締結(24年4月20日)、宮城県、岩手県と確認書を締結(24年4月27日)
 - ・災害廃棄物処理ガイドラインを策定・公表(24年6月7日)、三重中央開発(株)に災害廃棄物焼却灰の受け入れを要請(24年7月13日)
 - ・環境省から、岩手県久慈市の可燃物2,000トンの処理の要請(24年8月7日)
 - ・受入検討市町等との共同で住民説明(24年7月～25年1月)、住民現地視察を実施(24年9月25日)

- ・風評被害専用相談窓口、三重県災害廃棄物広域処理連絡会議の設置（24年8月）、消費団体等に対する協力依頼（24年9月）、リーフレットの作成（24年9月、25年1月）、パネル展の開催（24年10月～25年1月）、各種メディア（ラジオ、テレビ、県広報、新聞）での周知等、災害廃棄物広域処理に関する風評被害対策の実施
- ・環境省から通知があり、久慈市の広域処理対象廃棄物は秋田県での早期処理に目途がついたことから、三重県の広域処理が必要なくなったことについて発表（25年1月25日）
- 久慈市の物品を対象とした物産展の開催（24年11月～ 3カ所）
- 久慈市の被災・復興状況、三重県の支援状況と併せて久慈市の観光についてのパネル展示の実施（25年2月～3月 7カ所）
- 県立図書館で写真展「リメンバー大槌」を開催（25年6月）
- 復興支援パネル展（久慈市）の実施（復興状況、地域の紹介・PRなど）（25年4月～26年2月 22カ所実施）
- 災害廃棄物処理のため、岩手県久慈市に放射線測定器1台を無償貸与（～26年1月）

【地域連携部】

- 岩手県復興ポスター展の開催（各地域防災総合事務所・地域活性化局、2月中下旬～3月中下旬）

【農林水産部】

- 仙台空港の屋外花壇に三重県産の花壇苗・サツキ苗の提供と植栽支援（23年7月20日、9月10日）
- 三重県漁船の東北地方の漁港への寄航促進（東北地方への水揚げ寄航を行う三重県漁船を支援し東北地方の水産業復興につなげる）（23年度）
- 農林漁業就業・就職フェアにおいて東日本大震災被災者のための個別相談コーナーを設置（23年7月9日、24年2月4日、24年7月14日）
- 東北地方の観光パンフレットの配付及び物産販売（23年4月～24年3月 延べ17回開催）
- 県内百貨店との連携による東北物産販売を支援（23年9月、24年9月、25年9月、26年9月）
- 「みえ森林フェスタ」等で東北応援コーナーを設置し、宮城県の物産を販売（25年5月、10月）
- メールマガジン（三重の里ファン倶楽部）による被災県のグリーン・ツーリズムを紹介（26年7月9日、27年3月20日）
- 岩手県久慈市と三重県内のグリーン・ツーリズム実践者等の相互交流を実施
 - ・久慈市の実践者等を「第2回三重県グリーン・ツーリズムネットワーク大会」に招待し、県内の取組を体験してもらうとともに情報交換等を実施。（25年10月22日・23日）
 - ・三重県内の実践者が久慈市を訪問し、久慈市での実施取組の体験及び調査を通じた交流等を実施。（25年12月17日・18日・19日）
 - ・「第3回三重県グリーン・ツーリズムネットワーク大会」において久慈市のいなかビジネス（GT）実践者との交流を実施。（26年9月11日・12日）
 - ・三重県内のいなかビジネス実践者（2名）を久慈市に派遣し（全国ほんもの体験フォーラムに参加）、久慈市の取組調査及び久慈市の実践者等との情報交換・交流を実施。（26年10月25日・26日）
- 株式会社魚国総本社と連携し、県庁食堂において東北（被災地）産食材を使ったメニュー提供「みんなで応援！東北を食べよう」キャンペーンを実施（26年11月25日～28日）

【雇用経済部】

- 被災企業等の操業支援窓口の設置（23年3月30日～）

- 被災企業の事業継続への支援（23年7月8日～）
- 「第一回全国やきものフェア in みやぎ」への三重県ブース出展と出展事業者による寄付金（24年8月18日から22日、参加県内事業者10者、計202,576円）
- 「リーディング産業展みえ2013」において「災害復興支援コーナー(ブース)」を設け、東北3県（岩手県、宮城県、福島県）の特産品販売と、久慈市の観光PRを実施（25年2月13～14日、売上計288,900円）
- 「ワクワク！うまし発見フェスタ～みえの地域づくり大集合～」で、久慈市の観光PRを実施（25年3月2日、来場者数約3,700人）
- 「第7回美し国三重市町対抗駅伝」（26年2月）市町交流市場（物産展）で、久慈市による海女等の観光PR及び久慈まめぶ汁等の物産販売を実施
- 海女文化シンポジウムにおいて、久慈市の観光展示を実施（平成26年3月）
- 「リーディング産業展みえ」で東日本復興支援ブースを設置し、東北3県の特産品を販売
25年11月7～8日、売上計274,000円
26年11月14～15日、売上計45,955円
- 被災企業等の操業支援窓口を設置（通年）
- 被災企業の事業継続への支援（通年）
- 東北地方の観光パンフレットを配布（通年）

【教育委員会】

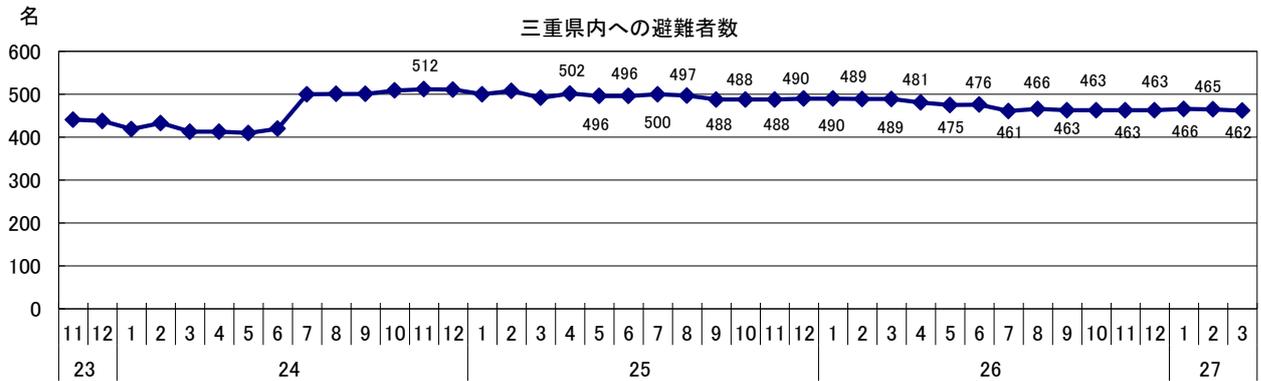
- 気仙沼市及び南三陸町へスクールカウンセラーを派遣（23年度～、88人）
- 中学生ボランティアを宮城県及び岩手県に派遣（24年8月）
- 宮城県の中学生を招待し、「子ども防災サミット in みえ」を鳥羽市及び志摩市で開催（24年8月）
- 学校防災交流事業の実施
25年8月 中学生及び教職員34名が宮城県を訪問
26年8月 宮城県の中学生及び教職員12名を三重県に招待
- 「ハイスクールサミット in 東北」への高校生の派遣
24年8月 2名 会場：宮城県
25年8月 2名 会場：宮城県
26年8月 2名 会場：福島県
- 平成25年「県民の日」記念事業で東北応援コーナーを設置し、物産販売を支援（25年4月）
- 久慈市及び山田町との交流と支援、ボランティア研修に高校生及び教職員等を派遣（25年8月）

3 県内避難者支援

【全体的事項】

○ 避難者数 (27年3月31日現在)

岩手県 115名 宮城県 54名 福島県 196名 茨城県 60名 千葉県 14名
 栃木県 15名 埼玉県 5名 神奈川県 3名 計 462名 (155世帯)



※ピークは、平成24年11月末現在の512名

	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	その他	合計
四日市市	112名	17名	45名	54名	18名	246名 (68世帯)
津市	0名	4名	43名	0名	6名	53名 (19世帯)
鈴鹿市	1名	13名	21名	0名	0名	35名 (14世帯)
その他市町	2名	20名	87名	6名	13名	128名 (54世帯)
合計	115名	54名	196名	60名	37名	462名 (155世帯)

【防災対策部】

- 発災以降、「三重県被災地住民住宅・一時的滞在場所情報提供窓口」を設置し、民間も含め避難者に提供できる住宅等に関する情報の収集と発信、相談の受け付け、あっせん等を実施し、円滑に手続きが進むようサポート (通年)
- 県ホームページ「東日本大震災に伴う支援に関する情報」の更新管理 (通年)
- 避難者に対して、避難元自治体からのお知らせ、県やボランティア団体からの連絡事項などを情報提供できる体制を整えるとともに、ボランティア団体と連携し、避難者同士のネットワーク構築を推進 (通年)
- 県内避難者からの相談 (通年)
 - <24年度> 22件
 - <25年度> 14件
 - <26年度> 5件
 - 26年4月 1件 県営住宅の入居相談
 - 26年6月 2件 子供の健康相談、住宅再建支援について
 - 26年10月 1件 県営住宅の入居相談
 - 27年1月 1件 津市への移住にかかる情報提供依頼

- 県内避難者のための「支援の集い」開催（24年3月18日 じばさん三重）
- NPO「ハハプロジェクト」開催の避難者支援行事への知事出席（24年4月15日）
- 避難元自治体、ボランティア団体、県等からの情報を市町を通じて避難者へ提供（通年）
 - <24年度> 30件
 - <25年度> 31件
 - <26年度> 24件

宮城県	1件	地域情報紙「みやぎ復興プレス」
福島県	13件（毎月）	避難者向け情報紙「ふくしまの今が分かる新聞」
福島県	1件	福島県からの避難者を対象に内部被ばく検査
茨城県	1件	茨城県公営住宅入居説明会通知
県内避難者支援団体	6件	東日本大震災復興支援被災者応援コンサート 立て干しへの招待チラシ ふるさと全国県人会まつり2014案内チラシ 芋煮会案内チラシ コンサートセミナーの招待チラシ 避難者向け情報WEBサイト紹介チラシ
三重県	2件	三重県総合博物館（MieMu）への招待状 東日本大震災四周年追悼式について

- 県内被災者支援団体「みえ災害ボランティア支援センター」とのアンケート調査打合せ（25年10～11月）
- 東日本大震災避難者のための無料法律相談会を開催（26年2月）

【総務部】

- 職員公舎の提供
 - ・累計 3戸（3名）
 - ・年度末の入居状況 23・24年度 3戸（3名） 25年度 2戸（2名） 26年度 1戸（1名）

【健康福祉部】

- 災害救助法に基づく被災県からの応援要請に応じ、市町等との連絡調整、避難者への住宅の提供等を実施（23年度～）
 - ・累計 5戸（17名）
 - ・年度末の入居状況 23年度 2戸（5名） 24年度 5戸（17名） 25年度 4戸（16名）
26年度 3戸（13名）
- 被災地からの避難者向けに、ホームページで福祉関連情報を提供（23年度～）
- 県内への避難者に対し、心のケアに関する相談窓口について市町を通じて周知（24年5月8日）
- 被災地からの避難者向けに、ホームページで福祉関連情報を提供（23年度～）
- 福島県が県内避難者向けに実施するホールボディカウンターによる内部被ばく検査について、広報及び検査場所を提供
 - ・検査日（場所） 平成26年9月17日、20、21日（吉田山会館） 9月23日、24日（県四日市庁舎）
 - ・受検者 38名

【環境生活部】

- 「みえ災害ボランティア支援センター」の活動
 - ・ 県内避難者支援「みえで仲間をつくり隊」を開催
しゃべり隊 (23年7月18日、8月7日、8月27日、10月29日、12月17日)
楽しみ隊 (23年11月20日、24年2月25日、5月20日、10月20日、11月17日、25年3月10日、
5月19日、8月25日、11月4日)
 - ・ みえ東日本大震災支援団体連絡会「つながろう三重」を開催 (24年5月14日、7月19日、9月13日、
12月12日、25年1月15日)
 - ・ みえ東日本大震災支援団体連絡会「つながろう三重」勉強会を開催 (24年5月23日)
 - ・ 「コープみえ くらしたすけあいの会」と協働で、生活支援事業を実施(24年7月1日～25年1月31日、
25年5月1日～9月30日)
- 県立図書館における被災地の地元紙の提供
 - ・ 「東北を知ろう、東北へ行こう！」キャンペーンの取組の一つとして、「岩手日報」「河北新報」「福島民報」を提供 (H23.7～9)、その後保管
 - ・ 福島県の協力により、「福島民報」「福島民友」を提供 (H25.4～)
- 被災地から三重県への避難者児童生徒及び保護者に美術館観覧券を提供 (H23年7月～H24年3月)
- 被災地から三重県への避難者に、三重県総合博物館への招待状を提供 (有効期間 H26年5月24日から同年8月31日まで (481名に配布 ※うち利用者数 21名 (大人15名 高校生以下6名))

【雇用経済部】

- 宿泊施設における被災者の受入れ体制の整備
- 雇用促進住宅の入居支援
23年度10戸(27名) 24年度12戸(26名) 25年度10戸(20名) 累計32戸(73名)

【地域連携部】

- 全国避難者情報システムの運用 (県内で346名が登録)

【農林水産部】

- 被災した農業者の受入定着を支援、県内に避難・移住された農業経営者等への営農サポート(通年)
- 県内に避難された女性農業者が立ち上げたグループの活動支援 (26年度において、農産物の加工品作りを「地域活性化プラン」に採択し、6次産業化を支援)

【県土整備部】

- 東日本大震災で被災等された方を対象として一時的な居住の確保のため、県営住宅を提供 (23年度～)
 - ・ 対象者は、東日本大震災で被災した者及び福島第一原子力発電所事故により帰宅困難な者
 - ・ 平成23年度からの新規受入状況 (23年度24戸(82名) 24年度1戸(5名)
25・26年度 0戸) 累計 25戸87名
 - ・ 年度末の入居状況 23年度9戸(24名) 24年度7戸(22名) 25年度4戸(12名)
26年度3戸9名

- 被災者を対象に、鈴鹿青少年の森において炊飯場の利用料金を免除（通年）
・利用実績 26年度 17名

【企業庁】

- 企業庁職員住宅の提供可能数をホームページに掲載（23年3月22日 単身用：大台町内5戸・紀北町内6戸、世帯用：四日市市内5戸・大台町内3戸）
・単身用：紀北町内6戸及び世帯用：大台町内3戸については、25年3月31日をもって終了
・単身用：大台町内5戸については、27年3月31日をもって終了

【教育委員会】

- 被災児童生徒等の小中学校等への転入を支援（23年度～）
- 被災地域の高等学校等の生徒で、保護者等の転居、親族家族への避難等により本県の県立高等学校等への転入学を希望する者に柔軟に対応（23年度～）
- 被災者を対象に、三重県立青少年教育施設（鈴鹿青少年センター・熊野少年自然の家）の宿泊料金及び施設利用料金等を免除（23年度～25年度）
- 三重県教職員住宅への被災者の入居支援（6か月間無料）（23年度～）
- 被災児童生徒等の小中学校等への転入を支援（23年度～）
- 被災地域の高等学校等の生徒で、保護者等の転居、親族家族への避難等により本県の県立高等学校等への転入学を希望する者への柔軟な対応（23年度～）

4 その他

【防災対策部】

- 東日本大震災支援フォーラム三重（24年3月11日 生涯学習センター みえボランティア支援センターと共催）
- 東日本大震災支援活動報告会開催（24年3月21日 水産会館）
- 県民からの支援物資について、被災地へ搬出するまでの集積保管場所として自社倉庫を無償で提供いただいた日本トランスシティ株式会社に対し、感謝状を贈呈（24年4月12日）
- 震災により被害を受けた子どもたちによる書道作品の展示（24年6月22日～28日 県民ホール）
- 宮城県南三陸町長 知事訪問（24年8月6日）
- 「うつくしま復興大使」知事訪問（24年12月26日）
- 「みえの現場・すごいやんかトーク」において、東日本大震災の支援活動に取り組んでいる方との意見交換（25年1月20日）
- 「全国タスキリレーIN 三重」全国学生プロジェクト(JASP)三重支部の知事表敬訪問（25年2月19日）
- 「東日本大震災被災地支援について」FM三重放送に知事出演（25年3月11日）

【戦略企画部】

- 宮城県との広報紙紙面交換による交流促進
「みやぎ県政だより9・10月号」に、三重県からの応援メッセージと観光情報を掲載
「県政だよりみえ9月号」に、被災地への支援に対するお礼のメッセージを掲載

【健康福祉部】

- 県内4カ所の空間放射線量率測定結果、及び水道水・降下物（大気中の雨水やちり等）の人工放射性物質の測定結果について、ホームページで情報を提供（23年度～）
- 県内に流通する食品の放射性物質検査を実施（24年度60検体、25年度60検体、食品衛生法に基づく規格基準値を超えるものなし）
- 保育所の給食一食全体について、放射性物質の有無や量の事後検査を実施する市町に対し、補助を実施（24年度13市町、25年度9市町へ補助）

【環境生活部】

- 県立図書館で、被災地からゲストを招いてトークライブを開催（23年10月、24年9月ほか）
- 県立図書館および市町立図書館等で、東北地方の歴史や文化の紹介、災害ボランティアに関する情報提供、観光パンフレットの提供などを行う「東北を知ろう、東北へ行こう！」と題したキャンペーンを23年度から4年続けて実施
- 県立図書館および市町立図書館等で、写真展「大槌町／2011夏・2012冬」「リメンバー大槌」等を開催（24年3～6月、25年6～7月）
- 「東日本大震災支援フォーラム三重」（24年3月11日）
- みえ災害ボランティア支援センター東日本支援活動報告会の開催（25年3月17日）
「三重からみつめた東日本大震災～被災地・被災者・避難者の2年、そして今～」
- 災害ボランティアシンポジウム（25年12月7日）
「311を忘れないために～これから三重で取り組むこと～」

【農林水産部】

<県内水産業への対応>

- へい死魚類や被災ノリ網等の収集・運搬・撤去等沿岸漁場環境回復のための支援（23年度）
- 津波被害を受けた養殖施設、共同利用施設及び定置網等の復旧のための支援（23・24年度）
- 県内でのカキ種苗供給体制の確立のための対策、種苗等の購入に必要な資金供給等稚魚・稚ガキの確保対策（23年度）
- 津波被害を受けた県内漁業者の経営再建のための資金融資（23年度）
- 過去の債務の借換促進、災害に強い新たな養殖生産体制の構築、販路拡大等の再生意欲の醸成のための支援（23・24年度）
- 東日本大震災に係る津波により被害を受けた県内水産業を支援するため三重の水産業復興応援フェア開催（24年3月24日）

<被災地の復旧復興のPR>

- ・三重県総合文化センターにおいて「みやぎの農業農村復旧復興セミナー」を宮城県と共催で実施（25年8月23日）
- ・三重県勤労者福祉会館において「みやぎの復旧復興セミナー」を宮城県と共催で実施（26年8月28日）
- ・県庁県民ホールにおいて宮城県・岩手県の農業農村の復旧復興をパネル展示でPR（宮城県展示25年8月19日～23日、岩手県展示25年9月17日～20日）
- ・県庁県民ホールにおいて宮城県の農業農村の復旧復興をパネル展示でPR（26年8月18日～22日）

【雇用経済部】

＜県内産業への対応＞

◆中小企業への対応

- 工業製品に関する残留放射能測定の実施（通年）

◆観光業への対応

- 震災で落ち込んだ県内への観光誘客を促進するための大都市圏の主要駅等での観光情報発信（通年）
- 海外誘客のための ICT を活用した情報発信（通年）

【企業庁】

- 宮城県松島町長が松島町への応急給水活動支援に対する感謝の意を表明するため、企業庁長を訪問（24年7月25日）

【教育委員会】

- 学校給食一食全体について放射性物質の有無や量の事後検査を実施（24年9月10日～25年2月28日）